

令和3年度研究室入室案内(シラバス)

当研究室では、動物を病気から衛る獣医師、獣医学博士を養成します。畜産現場の衛生対策あるいは家畜疾病のための検査を行い、必要があれば農場に調査に行きます。動物を愛し、協調性を持ち、微生物学を基盤とした家畜衛生獣医療に関心のある学生を歓迎します。動物を病気にさせない、それが衛生です。

◆ 受入人数 3名

受入前要面談。入室志望動機、3年後期の動物衛生学講義の出席状況および受講態度を確認します。

◆ 欧文獣医学演習 I・II (必修:各1単位) (評価基準: 英語読解能力、プレゼン、ディスカス状況)

英語文献(動物の疾病制御関連)の読解力を養成します。週1回開催(通常火曜日)。順番制。発表予定者は、資料を発表予定1週間前に室員に配布し、当日はスライドを用いた発表形式でプレゼンする。室員は事前に資料を熟読し、当日は全室員が一つ以上質問する。発表者は、それらの質問に対して、適切に応答する訓練をします。

◆ 産業動物衛生学専修実験 I・II (必修:各1単位) (評価基準: 研究態度、調査能力など)

初めは、上級生の研究を補助し、技術の習得に努めます。次に、短期的研究・調査課題に取り組んでもらいます。

その他、農場訪問、牛等の解剖にも積極的に参加し、農家さんとのコミュニケーション、牛や豚のハンドリング、試料サンプリング技術等の向上に努めること。

仮入室
(V4生)
向け

◆ 現在の卒業論文等 研究・調査テーマ (評価基準: 研究態勢、問題解決力、課題探求力、学会発表、学術雑誌発表)

① *Mycoplasma bovis* 感染症に関する研究 (2018.10、2019. 9、2020. 9 学会発表)

② 豚の浮腫病予防、治療に関する研究 (機能性飼料添加物、飼料成分の影響など) (2018.10 学会発表)

③ 豚のサルモネラ症治療に有効な抗菌性物質の評価に関する研究 (2020. 3、2020. 9 学会発表)

④ 馬由来細菌の薬剤耐性菌に関する研究 (2018. 2、2019. 9 学会発表)

⑤ 子牛の下痢症予防に関する研究 (市販製剤の効能評価)

⑥ 附属動物病院内の衛生対策に関する研究

⑦ 次亜塩素酸水の噴霧消毒の評価に関する研究

◆ 室員の心得

○ 教員、室員への挨拶を怠らない。教員からのメールには必ず返信すること。

○ 研究室に来られない場合(体調不良等)は、教員に随時連絡すること。無断不登校厳禁。必要と認められた場合は、自宅訪問や保護者への連絡を行います(※ 入室にあたり、自宅住所と緊急時連絡先を確認します)。

○ 講義・実習、ゼミ、研究室専修実験、掃除当番などに支障のあるバイトは認めません。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究室の休み（基本）：土日、祝祭日。春季（1週間）、夏季（2週間）、冬季（12/28～1/3） ○ 実験進捗状況・実験計画について、ゼミ時に確認します。 ○ 「獣医棟3F感染症ユニット利用規定（https://www.miyazaki-u.ac.jp/cadic/usage/guidance.html）」を厳守すること。 ○ 感染症関連5研究室合同ゼミ（毎月1回 火曜日 16:00-17:30）に出席し、年間の規定回数質問する（義務）。 ○ 研究室（またはCADIC）主催の講習会の準備・運営等を手伝い、社会人としての振る舞いを訓練する。 ○ その他、当研究室のHP（https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/msuei/index.htm）参考。 ○ 仮入室期間は、2年間を超えないこと。超える見込みの場合は、担任、保護者等を交え要相談。 ◆ 研究室行事（学生自主計画） ○花見、誕生日会、ビアガーデン、キャンプ、忘年会、歓送迎会など
<p>本入室 (V5生) 向け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 5年生（3名） <p>本入室時には、当研究室教員担当の講義の成績、実習時の態度ならびに卒業論文研究（8単位）に対する積極性および熱意等を面談した上で選考・受け入れます。</p>